

水野谷武志ゼミⅠ・Ⅱ

MIZUNOYA Takeshi Seminar I・II

参加学生数 17人



水野谷 武志
地域経済学科
准教授

鹿追町の小中高一貫教育に関する調査研究

【事業申請名称】 鹿追小学校との連携による地域教育発展に関する貢献事業

●連携内容

鹿追町の小中高一貫教育推進にあたって中心的な役割を担っている鹿追町立鹿追小学校の舟越校長先生と「北海学園大学経済学部水野谷ゼミナールと鹿追町立鹿追小学校による社会貢献協力に関する覚書」を取り交わした。舟越先生との連携の下で、鹿追町小中高一貫教育研究大会への参加、調査研究論文の執筆、研修結果報告および意見交換会を実現させることができた。

●研修地・研修日程 鹿追町

| | |
|--------|---|
| 2010年 | |
| 9月2日 | 鹿追町郷土資料館 |
| 9月3日 | 鹿追町小中高一貫教育研究大会に参加 |
| 9月4日 | 鹿追町内の視察（道の駅しかおい、鹿追町神田日勝記念美術館、観光農園にしかみ、鹿追町ライディングパーク、道の駅うりまく） |
| 10月18日 | 鹿追小学校を訪問して舟越校長先生に聞き取り調査を実施 |
| 2011年 | |
| 2月22日 | 鹿追町民ホールにて研究成果報告および意見交換会を実施 |

研修目的

鹿追町では文部科学省の研究開発学校の指定を受けながら英語と環境に関する教科について独自の小中高一貫教育を展開し、地域教育の発展を地域づくりの重要な要素に位置づけている。また鹿追町は、2010年9月3日に小中高一貫教育研究大会を開催し、取り組みの成果と課題を広く公開している。

本研修では、鹿追町小中高一貫教育の推進に中心的な役割を果たした鹿追小学校関係者へのヒヤリング、上記研究大会への参加、意見交換会の実施を通して、鹿追町の課題とその改善策を提示することによって、地域教育及び地域づくりのさらなる発展に貢献することを目的とした。

総括

9月3日の研究大会ではまず、午前中に鹿追小学校、鹿追中学校、鹿追高校で一貫教育科目であるカナダ学（コミュニケーション能力を育成する英語教育）と地球学（鹿追町の豊かな自然を基礎にした環境教育）などの公開授業があり、ゼミ生を3グループに分けて、各校の公開授業を視察した。午後には小中高一貫教育に関する講演会を聴講した。

10月18日には小中高一貫教育推進における中心的人物である鹿追小学校の舟越校長に聞き取り調査を実施し、鹿追の取り組みについて理解を深めた。

以上の現地調査の成果として、鹿追町の取り組みにおける現状と課題をふくめてゼミナール論文にまとめ、12月19日に中央大学多摩キャンパスで開催された、第57回全国学生経済ゼミナール大会で発表した。ゼミナール論文（全8章構成）では、研究テーマを「日本における学力の現状と学力向上への取り組み—北海道の事例調査をふまえて—」として、第1部（第1～5章）において日本の学力の現状をめぐる諸問題を既存資料にもとづいて論じ、第2部（第6～8章）において北海道内でゼミ生自身が実施した各種調査結果をまとめ、特に第6章において鹿追町の取り組みについて論じた。

翌年の2月22日には、これまでの研修成果をふまえて、鹿追町の小中高一貫教育の持続的なさらなる発展に貢献することを目的として、鹿追町の課題とその改善策を提案するために鹿追町を訪れた。舟越先生の他、町内の小中学校・高校の教頭先生、町教育委員会の方々との協力の下に意見交換会を開催することができた。詳しい内容については最終ページの「研修成果報告・意見交換会の開催」に譲るが、会に参加された先生方は学生の考えた率直な改善案を好意的に受け止めて、今後の参考にしたいと言ってくれた。研修全体を通じて感じたのは、外部に対する鹿追町教育関係者のオープンな姿勢とそこから学び取ろうとする積極的な態度であった。私たちの聞き取り調査や意見交換にも積極的に応じていただいた。長年にわたって町をあげて一貫教育を推進し、すでに成果を出している現状にも甘んじることなく、町子どもたちの教育向上を第一に考え、そのためには外部の意見や考え方も意欲的に取り入れようとする前向きな姿勢は、鹿追町における地域教育の発展を支える1つの原動力ではないだろうか。舟越先生をはじめ、町教育委員会や小中学校・高校の先生方に改めて今回の連携事業への協力に感謝したい。

写真キャプション

- ① 鹿追町郷土資料館。
- ② 鹿追町小中高一貫教育研究大会視察準備。



連携先からの報告

【北海学園大学の学生の真摯な姿勢に感激しました】

鹿追小学校校長 舟越洋二

水野谷先生からお話があった時は経済学部か多少戸惑いましたが、事前に打ち合わせに来られたときに、私から鹿追町の小中高一貫教育を進めた背景や考え方、その後の経過や現在課題となっていることについて話したところ、真剣に耳を傾けていただきました。

また、実際に見てもらうのが一番と、昨年9月3日に開催した小中高一貫教育研究大会にお誘いしたところ当日は20名近くのゼミの学生が、各授業会場や分科会場に分かれ熱心にメモを取っていました。その後、まとめた論文についても事前に目を通させてもらいましたし、鹿追での意見交換会にも参加して意見を述べさせていただきました。その間、学生さんたちの真摯な態度や対応に感銘を受けていました。リーダーの井澤ゼミ長が一生懸命に引っ張っているからでしょう。

私が、学生さんに一番伝えたかったことは、課題を解決するに当たって、まずは、地域の願いや子どもの実態など、「現状を良く見極めること」、次に「何が一番有効で何が出来るか作戦を練ること」、そして「必ず実際に実行してみること」です。どれだけ考えても、実際に実行しないと何も始まらないし、何も見えて来ません。実際にやった人しか物事の本質は見えて来ません。是非、実際に実行する人になって欲しいと思います。



学生研修記

【鹿追町で出会った「学びの本質」】



市川明枝

地域経済学科2年
札幌北高校出身

研修で訪れた鹿追町では、小中高一貫教育を導入している。この度、好機にも、我々は研修と同時期に開催される、小中高一貫教育の研究大会に参加させていただき運びとなった。私は、小学校で行われた公開授業「カナダ入門」「地球科」の2つを見学した。前者は英語を用いたの異学年交流、後者は新エネルギーの利用に関する学習、と両者は学習内容が大きく異なる分野であるが、自らの頭で思考し、積極的に発言できる生徒を育てたいという共通した目的のもとで成り立っていた。また、町とカナダ（姉妹町が存する）のかかわり、町において実践される新エネルギーの利用を学ぶことを通して、故郷の特長を再確認・再発見させたいとする意図も、ともに見られた。そして何より、生徒らが楽しみながら授業に参加している事実を目にし、その姿勢と授業自体に好意的な印象を受けた。

意欲や関心をもつこと。何事を学ぶにしても、これありきで学びが始まり、知識や考え方が我々の血となり肉となっていく。他人に押し付けられ、与えられるだけの学びから身につくものがどれくらいあるだろうか。生徒たちには学ぶことの喜びをいつまでも忘れず、鹿追町の明るい未来を担う、頼もしい存在に成長して欲しいものである。厚くましくもそんなことを思いながら、研修を終えたのだった。

【鹿追町での意見交換会】



山田貴之

地域経済学科3年
岩見沢緑陵高校出身

地域研修で9月に小中高一貫教育を推進している鹿追町に訪れ、小中高一貫教育研究大会に参加させていただいたのだが、研究大会に参加して様々な疑問点生まれ、より理解を深めたいということもあり、連携先の協力を得て2月22日に鹿追町民ホールにて意見交換会の時間を作ってくださいました。意見交換会には、町内の小・中・高の教頭先生や鹿追町教育委員会の方が参加され、その中で研究大会に参加した感想や私たちが考える改善策を提案させていただいた。研究大会などに学生が参加された例はなく、学生目線の感想に関心を示してくださいました。改善策については、例えば、町外から鹿追高校に入学してくる町外生への対応については、「町外生への課題学習を増やし、手厚く保護していくべき」という改善策を提案したところ、「小・中学校は義務教育であるため、国の管轄の下に町が主体的に関われるが、高校は北海道の管轄であるため、そこの一貫を図ることが難しい」との現状があるとの回答をいただいた。うなずける回答である一方で、この難しい課題を乗り越えることができれば鹿追町の取り組みはさらに発展することができるのではないかと感じた。

意見交換会に参加したことによって、私たちが抱えていた疑問点が解消でき、理解を深めることができたし、また学生なりの意見や改善策を提案することで、より活発な意見交換会を行うことができた。そして、実際に現場に足を運び、調査したことによって、様々な現状や課題を見出すことができ、大変貴重な経験ができたと感じた。

最後にお忙しい中、貴重なお時間を作ってください、快く受け入れてくれた先生方・教育委員会の方々に改めて感謝したい。

●鹿追町小中高一貫教育の概要

英語教育と環境教育において12年間の一貫した独自カリキュラムを町内すべての小中学校および高校で連携・展開する、鹿追ならではの小中高一貫教育のことである。2003年度から開始されたこの一貫教育は、町内全小中学校・高校において文部科学省研究開発学校指定を受けて推進されている。英語教育では、英語によるコミュニケーション能力の育成プログラム、環境教育では、鹿追町の豊かな自然環境を活用した教育プログラムが展開される。また鹿追町の特徴として、カナダ・ストニブレイン町との姉妹町提携を活かして、鹿追高校1年生の希望者全員をストニブレイン町に短期留学派遣したり、ストニブレイン町から外国語指導助手（ALT）を招いて鹿追町の英語教育に活かしていることがあげられる。

写真キャプション

③④ 鹿追町小中高一貫教育研究大会。⑤ 町内の視察（神田日勝記念美術館）。⑥⑦ 鹿追小学校を訪問、舟越先生から聞き取り。

